

今私が主として使っている言葉は、日本語です。そして、私が無気なく言葉と聞いて思い浮かぶのは、日本語と英語です。そのほかにもたくさん言葉がありますが、私の身近にはこの二つが満ちあふれています。

自分の英語の知識も能力も、高が知れていると言っていることを十分承知していますが、その完全とは全くもって言えない知識と能力でもって、英語に対しての考えを二つあげたいと思います。

一つ目は、英語には敬語がないということです。中学生の頃、『ハリーポッター』の原書を読んだことがあります。それまで、個々のキャラクターの口調やさまざまな一人称は、もちろん英語にもあると思っていた私だったので、とても驚きました。生き生きとこんな感情でこんな表情で言っているのかなと想像することができた日本語。それとは打って変わって、冷たく淡々とした単語がそこに並んでいたのです。そして、あんなにも個性的なキャラクターは、実は翻訳の際に翻訳者が形作ったのかと思うと悲しくなりました。私が当たり前だと思っていた敬語は、本当は日本語だけのものだったのです。しかし私は、人を敬う言葉遣いが日本語にしかないと考えてみると、とても誇らしくなりました。

二つ目は、英語には温かみがないと感ずることです。日本語には、言葉次第で柔らかい言い方や、感情を表すことが可能ですが、英語には声のトーンや強弱でしか表せないと思うのです。そして、日本語には敬語の他に、ちょっとした気配りのできる言葉もたくさんあります。相手に断りを入れる言葉にだって、場合に分けて使う様々な言葉があります。私は、このようにたくさんある言葉を使われると、そのちょっとした気配りに嬉しく感じ、心がほんわかと温かくなります。

また、先ほど述べたように、日本語には口調やさまざまな一人称があり、相手によって私達は言葉を少しずつ変化させて使っています。これらも私は気配りの一つではないかと感ずるのです。

私はさほど、日本語に対して好き嫌いを考えたことがありませんでした。私は、日本語を使うというのは当たり前で息をするのと同じくらい、何も考えずに使っていたのです。外国語に触れると、日本語との差を感ずります。そこで初めて、日本語の良いところと、悪いところがあるのだと感ずりました。そして、『ハリーポッター』の原書を見た時、私は日本語を好きだと感ずったのです。

日本語ではない言葉。外国語に触れてみて初めて、母国語の善し悪しが分かるというもの。比べてみて、母国語を愛することができるようです。そうして、私は英語と日本語を比べてみて、感ずたことはたくさんありました。私が思う日本語の良いところは、相手を思う気持ちや素直に表せる言葉があるところ。人を敬う言葉があるところ。

発言した人も、その言葉を受け取った人も、温かく感じられるところです。